



今 勝吉議員

### 一般質問

## ひきこもりの実態調査と支援について

答弁：平成30年3月に実態調査を行った。令和2年度から、引きこもり当事者同士が悩みを共有し、社会復帰の契機となる集いの場「ひきこもり地域支援センター」を開設し、事業を展開する予定としている。

《今議員》  
①ひきこもりはかつて、若年層特有の問題だったが、最近では中高年層を含め、特に顕著化している。当町におけるひきこもりの実態を把握しているか。

②当町の実態調査から今後どのような見守り態勢、支援体制を行っていくのか。  
③ひきこもり当事者と向き合う家族の中には、相談窓口が分からないなど聞くが、当町における支援体制の状況、またその周知は徹底しているのか。

《町長》  
①平成30年3月の深浦町民生児童委員協議会定例会において、「町内に住む19歳から64歳までの方で、心身に重い障害がないにもかかわらず、家族以外の人や地域との交流を避け、長期間にわたり不就業である方」を対象にふるい分けを行ったところ、103人の方々がいわゆる「ひきこもり」状況にあると把握している。

②町では、長期不就労者等支援事業として、町内の各福祉施設や観光施設等の事業所に就労訓練の場として受入れの協力を依頼し、かかる費用の2分の1を6か月間助成する事業を実施した。

対象者となった103人のうち、就労可能と思われる13人の候補者に対し、福祉課・包括支援センター及び町社会福祉協議会の職員が訪問したところ、本人と面談できたケースが5件、家族のみと面会できたケースが4件、全く会えなかったケースが4件であった。

③令和2年度において、生活困窮者就労準備事業の補助金を活用し、町社会福祉協議会に「ひきこもり地域支援センター」を開設し、ひきこもり状態にある本人や家族からの相談業務を受けるなど関係機関と連携を図りながら、当事者同士が悩みを共有し、社会復帰の契機となる集いの場として事業展開を予定している。なお、「ひきこもり地域支援

センター」開設の段階で町ホームページや広報お知らせ版で町民に周知していきたい。



### 少子化対策、若者の婚活、結婚支援について

《今議員》  
①町はこれまで、少子化対策の充実に向け取り組んできたが出生率の成果は表れていない。今後、これまでの施策や社会の在り方を点検し、子育て支援の現金支給等を見直しする考えはないか。

②町は、若者の婚活支援・結婚支援・出産支援・子育て支援等への施策に取り組んでき

たが、これまでの状況を検証し、婚活・結婚サポート（登録会員制、パソコン・スマホの利用）の窓口を開設するなど、今後町の活力の根源となる若者支援を更に推進する考えはないか。

《町長》  
③「地元企業」「個人」「教育機関」「施設・団体」の協力を得て、若者の出会いの場を後押ししていく考えはないか。

①町ではこれまで、子ども・子育て支援対策として第3子以降の子どもに対し、出生時30万円、3歳到達時10万円、小学校入学時10万円の計50万円を支給する「子供を健やかに生み育てる支援金事業」をはじめ、高校卒業までの医療費を無償化する「子供医療費給付事業」、特定不妊治療費の助成、多子世帯の経済的負担軽減策として第3子以降の保育施設費用の無償化事業などに取り組んできたが、出生率の向上につながっていない現状にある。今後町独自の子ども・子

育て支援対策事業は継続しつつも、「子供を健やかに生み育てる支援金事業」について、令和元年度に対象となる子供が3人、令和2年度においても1人ないし2人ほどと見込まれていることから、県内各市町村の動向も踏まえ要件等の見直しを検討したい。  
②若者の婚活支援・結婚支援等について、当町では平成29年3月から「若者交流・結婚推進事業費補助金」を創設し、民間事業者が行う結婚推進の取組を支援してきた。  
昨年度までの過去2年間の事業実績として、漁業者や農業者有志の団体及び民間事業者から申請のあった4事業に補助金を交付し、延べ5回のイベント開催に計63人が参加町として若者交流、結婚推進に一定の効果があつたものと考えている。  
近年、婚活イベント等の参加者を集めるのに苦労するケースが全国的な課題となっていることから、当町としても「出会いの場」として地元企

業や団体等、民間事業者の協力を得ながら、五所川原圏域や定住自立圏、構成自治体間での相互情報提供に加え、県や関係機関と連携・協力しながら婚活・結婚支援が実りある事業となるよう推進したい。



### 大岩への国道横断に伴う交通安全対策について

《今議員》  
旧消防署や深浦医院跡地近くに待望のコンビニがオープンし、住民の利便性はもとより、観光スポットである「大岩」に足を運ぶ観光客の利用

も大いに期待している。

また、コンビニの駐車場は大型車両にも対応できる広さを確保しており、今後は観光バスの駐車にも活用されるものと思われる。

しかし、大岩遊歩道への入口はカーブ法線で見通しが厳しく、観光シーズンは道路横断もままならないと想定されることから、当エリアの交通安全対策を考えているか。

《町長》  
コンビニエンスストア誘致は、まちづくり住民アンケートにおいても極めて重要度高く、2月中旬の待望のオープンは大変喜ばしい限りであり、利便性の向上や深浦駅に近い観光スポット「大岩」への観光客も増加するものと大いに期待している。

ご指摘のあった大岩遊歩道への入り口は、大きなカーブの半ばに位置し見通しが非常に悪く、町でも事故が起こりかねない危険箇所と認識しており、国道を横断する方々の安全対策として駐車場

付近に新たな横断歩道を設置できないか、事前に鯨ヶ沢警察署と協議を行った。

鯨ヶ沢警察署からは、春になった早い時点で危険箇所の交通状況を注意深く観察した上で対策を考えたいとの回答であり、町としても新年度開催予定の交通断等において、その可否を確認し、新設可能となれば関係機関と調整、住民からの合意を得るなど、諸手続きを迅速に進め、対策を講じた



▲鯨ヶ沢警察署による横断歩道設置確認（深浦地区）



▲大岩遊歩道入り口付近のカーブ（深浦地区）